

2017年レント集会～「十字架と神の国」～

第7回「『ユダヤ人の王』の十字架」マルコ 15:16-41

1. 背景

(ア) 「神の国」って何？

「神の国」＝「神の支配」＝「神の愛の支配」＝「神の愛に満たされること」

「神の支配」自体でもあり、
神の愛が溢れている場所でもあり、人でもあり、人の集まりでもある。

「神の国」は「死んだあとに行く天国」「やがてくる永遠の神の支配」だけではない。
・・・今ここからはじまる。始まっている。

(イ) 当時のユダヤ人の「神の国」への期待。

「神の支配」に対するその時代の考え。

ユダヤ人・・・どうして私たちはこんなに苦しむのか？

・・・バビロン、ペルシャ、ギリシャ、シリア、ローマの支配下におかれる

→神の支配の下にあるならば、神が正しい裁きをしてくださる
異邦人の支配から私たちを解放してくださる。

⇒ ローマ帝国による支配 ⇔ ユダヤ人の神の国への期待

(ウ) 神の国の秩序（第1回から）

・神の国の王は仕えることによって、私達を満たす。

「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」マタイ 20:26-27

2. 十字架における「王」

(ア) 兵隊たち

・紫の衣

・いばらの冠

・「ユダヤ人の王、バンザイ！」

⇒神の国の王はその王であるがゆえに、この世で侮辱にされた。

・・・神の国に生きる者も、この世でそのように扱われることがある。恐れるな。

マタイ 5:11-12、ヨハネ 15:18-21

(イ) ピラト

・「ユダヤ人の王」という罪状書き

これは、自分の権威、自分の勝利をユダヤ人たちに対して見せつけるためのピラトの意地・・・しかし、これがイエスの本当の姿を表わすために用いられた。

⇒神の支配の象徴

(ウ) ユダヤ人指導者たち

- 「イスラエルの王キリスト、いま十字架から降りてきてみろ。そうしたら信じよう」
⇒人々の「王」に対する期待とイエスが「王」であることの違い。
- 「他人を救ったが、自分を救えない」
⇒「自分を救わないで、他人を救う」が故に、イエスは神の国の王。

3. イエスによる救い

(ア) 「わが神、わが神、どうして・・・」

説1：詩篇 22 篇・・・「わが神、わが神、どうして」と始まる。しかし最後は勝利の宣言。イエスはその詩篇を暗誦していた、そこにイエスは自分の十字架の苦しみを重ね合わせていた、という説。

説2：イエスは本当に父なる神に捨てられた。それは、イエスが私達の罪を背負ったがゆえに、呪われた者となって下さった。ガラテヤ 3:13

(イ) 神殿の幕が上から下へ裂けた

- 神殿の幕・・・神と人との間を隔てていた。
・・・聖なる神の前で人が死なないように。
- その幕が上から下に裂けたことは、「これはもう必要ない」という神の宣言。
イエスによって、私達の罪が赦されて、私たちは喜んで神の前に立つことができる。
ヘブル 10:11-22

4. 「十字架と神の国」(第一ペテロ 2:21-25)

(ア) 十字架は神の国の土台

- 十字架による罪の赦しがあるから、私たちは神とともに歩める。神の支配を喜べる。

(イ) 十字架は神の国の生き方

- 十字架で自分を与えられたイエスの歩みを、私達もたどっていく。